

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念に基づいて地域の方々にご協力を頂きながら、普通の住民として散歩中に近所の方々と出会えば挨拶を交わし、近くのコンビニやスーパーへ買い物に行くなど暮らしの継続を実践している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月ユニット会議を行い、どうすればその人らしく生活を送る事が出来るかを話し合い、スタッフ全員が検討し目標を決めて3ヶ月単位にて評価し、確認事項を書類化整備する事で共有している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・事業所では、地域講座や運営推進会議に地域住民や家族、スタッフも参加している。 ・各ユニットでは広報発行のほかにご家族に理念理解の下、援助内容によって協力を頂くこともある。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時の挨拶や菜園では野菜作りへのアドバイスを頂く等、日常的に地域交流がある。 ・地域のボランティアさんにも趣味活動を通し、定期的または随時来て頂いている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・夏祭りには近所の方を招待したり地域とのつながりを大事にしている。 ・地域の運動会、祭り、フェスティバル等積極的に参加している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居前にご本人、ご家族と充分話し合い、希望者にはお試し入居をしてもらいし納得された上で入居して頂く。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・日々の暮らしの中で、何気ない利用者同士の会話をしっかり受け止め、その時々的心情によりそっている。 ・ご家族の申し入れなどについても、どんなこともきちんと受け止め、ご家族とともに課題解決に努めている。 ・介護計画は、ご本人・ご家族の思いや意見を取り入れている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・金銭管理は、毎月ご家族に出納簿のコピーを送付し、暮らしぶりや健康状態は、面会時に対面で報告している。 ・ユニットごとの広報誌の発行や事務連絡の発送で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族会で多くのご家族の意見と運営推進会議には、代表1名が参加していただき、意見や要望を運営に反映させる努力をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・ユニット会議でスタッフの意見や提案をリーダー会議やシニア運営会議で論議できる機会がある。 ・「風通しの良い職場作り」が理念化されており、組織運営の中で縦横通しの会議があり、意見・提案が反映される。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・会議や有給保障のために配置できる余裕のスタッフがいる。 ・利用者の個別対応の外出もできるよう努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・3ユニットの中でなじみの関係作りから、スタッフの移動は理由がない限りはない。 ・スタッフの定着について、運営推進会議などで議論されることもある。</p>	<p>○</p> <p>・スタッフが離職につながらないためには、処遇に勝る魅力ある職場作りにスタッフ全員で努めなければならない。 ・介護職員の厳しい現状を社会的に認識を深めてもらえるためにも誠実な思いで利用者に関わり、ひとつひとつの課題を明確にし、継続維持ができるよう努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・階層別(管理者・リーダー・スタッフ)の研修が組織として体系化されているので、参加させてもらう。 ・外部研修の情報も職員全員に回覧され、公的・私的に参加できるようになっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・全国グループホーム協議会や京都府のグループホーム協議会に加盟されており、定例会や研修に行かせて頂くなかで、交流や情報交換の機会がある。 ・全国社内事業所の研修や交流会に参加させてもらう。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・社内の福利厚生を利用し、スタッフのレクリエーションが年2回実施される。 ・MHP21というストレス管理や健康増進のシステムがあり、全スタッフが利用している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・スタッフのモチベーションアップのために研修を積み上げていくことが大切であると考えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・初期面接では、担当ユニットリーダーと管理者(ケアマネ)が在宅訪問し、入居希望者のご本人とご家族より生まれてからの経歴や現在の思い、将来お希望など聞き取る。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・今までの生活習慣、趣味などを聞きながら、その人らしい生活が続けられるように援助計画に盛り込んでいる。また、具体策を一緒に考える。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・アセスメントシート(事前調査)を詳細にわたり、書き込み、利用当初は1週間～1カ月の介護計画の見通しをしながら、希望と必然的な支援のプランを作成する。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・お試し入居もあるが、希望によっては半日や日帰りで徐々になじめるようご本人やご家族とは常に相談している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・人生の先輩から学ぶことはたくさんあり、利用者スタッフとのおしゃべりの時間も大切にしている。 ・全スタッフは新人研修の中で「援助する人」「される人」の関係性ではなく共に暮らし、共に支えあっている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・体調をくずされた時などは家族と相談しながら必要なときは家族付き添いで医療機関を受診や通院をして頂き、家族側より主体的に協力していただいている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>・ご家族と一緒に過ごす時間を大切にし、ご家族がグループホームに宿泊されることもよくあり、旅行にも出られる。また、行事や交流会ではご家族の参加者が多い。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>・馴染みのかかりつけ医の継続や行きつけの美容室やスーパーなど個別に行かれることに対応している。 ・地域の独居の会に入られていた方でご家族や民生委員のご配慮で継続していかれるケースもある。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>・一緒に買い物や食事作りや掃除など共に生活している中で、誰が何ができるかそれぞれに自然に把握でき、支えあう生活場面も多い。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>・入院のため退去された方にはお見舞いに行くことで不安な気持ちを聞いて次の生活を少しでも安心して迎えられるように援助している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・常日頃のコミュニケーションの中で利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。</p> <p>・困難な事例が発生するとユニット会議のみならず専門家の意見を聞いている。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・初期面接や日常のコミュニケーションの中で、生活歴を知り、趣味やできることを援助計画に盛り込み、サービスの提供につなげている。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・アセスメントシートには、各生活のながれごとの役割や支援と全体の姿や周辺症状、趣味活動など総合的な把握にも努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・毎月または随時にユニット会議を開催し、利用者のご家族の思いを汲み取った上で職員が意見を出し合い、検討した上で援助計画を立てている。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・毎月1回のモニタリングを実施しており、変更のあった場合は援助計画の見直しを行なっている。特変時は緊急カンファレンスを開き、見直しをする。そのときには、ご家族とも話し合いをした上で援助計画を立て直す。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の援助計画はそれぞれのケース記録の裏表紙にファイリングし、日々の援助計画と整合性のある記録をするように努めている。 ・そのときそのときのそれぞれの気づきも記録に残し、ユニットの全スタッフで情報を共有する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・居宅支援事業所と訪問介護事業所が併設しているが、利用者が多機能性を利用するというよりは、夏祭りなど全事業所の利用者やご家族が集まり、盛大な行事として開催され、合同で参加する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・散歩や習字、絵の会など又は壁画や随時の催しものなど、地域のボランティアさんには、ずいぶんご支援を頂いている。 ・民生委員さんも運営推進会議のメンバーであり、消防は避難訓練時に来ていただく。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・社会福祉協議会のきりしま苑の催しものが長岡京市の広報紙から情報を得て、参加したり出かけることはある。 ・福祉用具の利用も必要に応じてケアマネジャーを通じて購入してもらう。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議のメンバーとして、常に情報交換をし、権利擁護などの長期的なケアマネジメントの相談を受けられる関係性である。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・それぞれのかかりつけ医には、随時連絡がとれる状況であり、医師によっては携帯やメールのやりとりもできる24時間のオンコールの連携体制がとれている。 ・2週間に1回、訪問診療をそれぞれの利用者のかかりつけ医にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>・訪問看護ステーションとの契約をし、より安心な医療管理体制を整える。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護の取り組みは法人主体で徹底的な教育体制と誓約書が交わされる。 ・プライバシーの確保については、どんなに認知症が重度化しても特に入浴時や排泄のケアのあり方、またその時々言葉かけには気持ちが通じ合うように十分配慮をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・そのひとりひとりに合わせたコミュニケーションの中で説明する基本姿勢と希望を聞いた上での意思決定を大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事時間、入浴など本人の意思を尊重し、けっして強制することのないようにしている。 ・アセスメント抽出による援助計画に基づくケアとその時々々の気持ちを大切に汲み取り、食べ物や何をやりたいかななどを個別対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・ボランティアの美容師に毎月来ていただき、希望者はカットのみならず、美容マッサージやパーマなどして頂いている。なじみの美容室や近隣の美容室に行かれている方もある。 ・食べこぼしなどのシミがついた洋服を着たままにならないように気をつけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者とスタッフが一緒に毎食(朝、昼、夕)調理をし、味付けから盛り付け、そして片付けまで一連の流れを継続的に楽しみながらしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者が自由に使える冷蔵庫も各フロアーにあり(個人で居室に持ち込んでいる方もある)自分の好みの物を入れている。 ・お酒(ビール、ワインなど)は、行事や希望にそって飲まれることもある。 ・たばこの喫煙者はいない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットに電話機が2機あり、利用者も自由に内線、外線ともかけられる。他のユニットでは携帯電話を持っている方もいるが、このユニットにはいない。 ・手紙をよく書かれる利用者もある。 		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時間はないので、日常茶飯事に自由に出入りしていただいている。 ・布団のリースもでき、いつでもご家族が宿泊できるように支援している。 ・ボランティアさんやご家族の方々も利用者と一緒にリビングでくつろぐ光景は多い。 		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・各スタッフがマニュアル周知のもと、身体拘束やことばの拘束は絶対しない。転倒の危険性が高い方は必ずスタッフが付き添うことで自由に歩いてもらえるようにしている。 		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の居室に鍵をかけないと不安で仕方がない利用者もいる。(鍵があいていることで物取られの被害妄想がひどくなる) ・基本的には、鍵はかけない。 ・夜の玄関のとじまりや朝は利用者の役割で開け閉めをしている。 		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず、フロアーにスタッフは居ることになっており、利用者の所在やお一人お一人の様子を確実に把握するよう努めている。 ・昼間はスタッフの声の掛け合いを徹底し所在確認を怠らず、夜間は時間巡視にあわせ、利用者のプライバシーには十分配慮している。 		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理時の包丁や製作時のはさみや針については、スタッフが必ず見守りのもと使用していただいている。 ・歯磨き粉と洗顔クリームをたえず間違っている利用者には大きく品名を書くなど工夫することによって、間違えて使うことのないようにしている。 		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒の危険のある利用者に対してはプライドを傷つけないようにさりげなく付き添うようにしている。 ・どんなささいなことでもヒアリはつとを記入し、その時々起こったことや気づいたことにスタッフの意識化を図り、事故につながらないように予防策を考えるようにしている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急マニュアルや事故マニュアルがスタッフルームに整備してある。また、内部的にも勉強会がある。 ・リスクマネジメントの研修について外部研修や会社のスタッフ研修で位置づけられ出席することが多い。 ・消防署の救急救命の講習を受ける。 		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導のもと、年2回の避難訓練を行っており、利用者も参加できる方は毎回している。地域の方々にも実施についてのご協力をお願いしている。 ・災害マニュアルの整備もあり、チャート化され、いざというときスタッフはあわてないようにしている。 		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にご起こり得るリスクについて、ご家族には説明をしたり相談を日頃からしている。 ・安全第一であることを全スタッフで確認しながら、個別ケアについてのリスクや環境整備的なことなど抑制感のない暮らしの工夫を常に話し合っている。利用者とも常に相談し利用者の発案も多い。 		
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う体調の変化や異変に気づいたことは申し送りノートに記入する。緊急時はかかりつけ医に連絡し支持を仰ぐ。 ・申し送りノートはスタッフ全員が確認し押印する。又口頭でも申し送りを行ないいつもと違う状況の利用者に対しては特に注意するようにしている。 		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・処方箋管理表、および服薬管理表の記入により服薬に関しては間違いがないように徹底している。誤飲、飲み残しがないようにお一人お一人手渡しから飲み込むまで確認を必ずする。 		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の状況に合わせ、水分補給や繊維の多い食べ物など工夫したり活動をや運動を意識的に行い、自然排便を促すようにしている。 ・自然排便が難しい方は、かかりつけ医から処方された下剤を服用し、チェック表(全員)を記入することで確認している。 		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを実施している。 ・1人での口腔ケアができない方にはスタッフが見守ったり介助を行なっている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事摂取量に記入している。運動量が減り体重が増加した利用者は栄養士と相談しながら食事内容、量を工夫している。</p> <p>・水分補給は基本と捉え、小まめに楽しむ形での水分の取り方を工夫している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>・マニュアルや研修もあり、日頃から食事前の手洗いや外出先から帰ると、全利用者にはスタッフの声かけや付き添いにより行なうように習慣化している。またアルコール消毒も洗面台やトイレや台所に設置しこまめに消毒するようにしている。</p> <p>・玄関と裏口にも手洗い場とアルコール消毒が設置されており、外来者にも協力をお願いしている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>・衛生管理が徹底されており、定期的な巡視も実施されている。</p> <p>・調理に関わるスタッフ、利用者は手洗い消毒を行い、冷蔵庫内の食品は常に賞味期限を確認している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>・常に玄関はオープンであり、ボランティアさんを含む近隣の方々が自由に出入りでき、エントランス横が事務所であるので確認のもと、各ユニットにご案内できるように安全にも気を配っている。</p> <p>・玄関前にはガーデニングセットが置いてあり、利用者も含み、団欒できる場所がある。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・建物は寮の改修型なので、家庭のようなぬくもり感を味わうために、利用者と一緒に椅子カバーや壁飾りなど作り、くつろげるリビングになるよう工夫している。</p> <p>・照明は暖色系にしている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・限られたスペースでありながら工夫をして、ソファの配置やエントランスを利用してソファを置くなどしている。</p> <p>・2間の居室の利用者も居るので、その広い居室に気の合った利用者同士がくつろいでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前の利用者が使っていた家具などを持ち込み、居室内に置いたり、自分の製作物や好きな絵や家族の写真など自分で飾られて落ち着いて過ごしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度調節や空気の入替えなどスタッフの管理のもと毎日適宜に行なっている。 ・他には空気清浄機や加湿器など設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・改修型なゆえ、もともとの段差や無理なスロープがあり見守りが必須なところもある。その中でも自立した生活ができるように手すりなど安全対策をしており、転倒防止策をとっている。	○	・建物の老朽化が進み、修繕の繰り返しであるのと、利用者の重度化に伴い、段差やお風呂など身体機能にそぐわなくなってきたので、工夫だけで生活できず、大改修の必要性も出てきている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレや各居室は、手すりのプレートを下げたり、居室内の衣類などの整理はご家族がテプラや貼り紙などで、本人でも整理しやすいように工夫されている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・裏には畑を借り、利用者と共に耕したり野菜収穫を楽しんでいる。 ・利用者個人が、あり空き地を利用し菜園をつくり、他のユニットにも収穫した野菜を配り喜ばれている。 ・花の好きな方は、玄関周りに花を植え、挿し木で増やしたり、種をとったりしながら、来年に向けて育てている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご家族の皆さんが信頼して下さっており、いろんな面で協力をしてくださる。
- ・利用者それぞれのかかりつけ医との連携は深く、利用者・ご家族の希望に添ったターミナルケアも実践可能である。
- ・5年の経過の中で、重度化の進行が緩やかで退去者が少ない。
- ・地域との関係や信頼が深い。
- ・スタッフが安心して働ける。